

日本発ウィーン便り～街で拾った情報たち～

ちょっと大作(?)が続いたので、息抜きを…。

いつの頃からか、旅行中にはかならずメモとペンとカメラを鞆に入れる癖ができました。

街の中でちょっと面白いものを見つけたら、忘れないうちにメモしておくため。それは、カフェで読んだ新聞記事だったり、街頭のポスターだったり、電車の車内の広告であったりと色々です。

(なんて取材熱心なんでしょう…。)

まあ、特に重要なことはないのですが、ちょっと溜まってきたので、ウィーン編ということでいくつかご紹介したいと思います。

Wiener Tochtterttag (ウィーナー・トホターターク)

そのまま訳すと「ウィーン娘の日」と謎ですが、あやしいものではありません。小学校などで行われる、「参観日」のイメージで、でも参観するのが、「娘」で、学校ではなく「親の職場」のいわば参観日です。これは「うちのパパ・ママはちゃんと働いてるんやろか？」というのが目的ではなく、パパもしくはママの職場と一緒に子供が出勤して、「働かってどんなこと？」というのを一日体験する、というものです。別に「娘の日」だから、「息子」は連れて行ってはいけないのか、というと、そうではなく、男性に比べて就業機会の少ない女性にも「仕事をする」ということに興味をもってもらう、というのが目的で、こういう名前になったのだそうです。何でもそもそもはスイスで始まった運動らしく、まだ始まって5年程度だそうですよ。こういうの、日本にもあったら面白いのに！時期は秋です。

ごみ収集車の車体にかかれたメッセージ

ちょっと早起きすると、ごみの収集車を街中で見ます。日本の収集車の2倍はあるかと思う巨大なものです。よく見ると、車体に1台ずつ異なるメッセージが書いてあります。たとえば

“13800 Geborgte Einkaufswagen auf der Strasse” (路上で保護されたショッピングカートの数: 13800台。)

そうです。ウィーン市の前年のごみの状況についての統計内容が書かれています。それにしても、13800台とは、半端じゃない数ですね。ウィーンではスーパーマーケットでのショッピングカートは有料(返せばお金は返ってきます。)だから、ついつい、持って帰ってしまうんでしょうかね？こんな風に、「え？そうなの？」という統計内容がそれぞれの車体に書かれていて、なかなか楽しかったです。でも見るのがすれ違いざまだったりで、なかなか全部読み取れないんですよね…。考えさせられるメッセージです。

Strassenbahn (シュトラーセンバーン: 路面電車内の求人広告)

「雪が降ったら…」という大きな文字に始まる広告は、ウィーンの路面電車・地下鉄・バスを運営する会社の広告。はい、ウィーンは寒いところで、よく雪が積もります。雪が積もると公共交通機関に遅れがでます。そこで登場するのが臨時の Schneeräumung (雪かき) のお仕事！

大募集！してました。これは2交代制で、シフト が 07:00～15:00 で時給が 5.12 ユーロ。シフト が 22:00～06:00 で 5.73 ユーロ。制服や雪かき道具は支給とのことでした。

いやいや、縁の下の力持ち、とはこのことですね。でも今年の暖冬、このお仕事の稼働率はいかなものでしょうか？

Rechts stehen! (右に立て！)

ウィーンの地下鉄のながーいエスカレーターにはこのような張り紙がしてあります。

要は「右に立つ。歩く人用に左側は空けるべし。」の意味です。そうです！「右に立って、左は空ける」。これが国際ルールです。でも何で東京は反対なんでしょうね？

Strassenkünstler(大道芸人) /Strassenmusiker(路上の音楽家達)

音楽の街ウィーンらしく、街角では、さまざまな音楽家や大道芸の人たちが活躍しています。もともと街中に不要な音が溢れていない+石畳と反響して、とてもいい雰囲気です。マイクや電子的な大音響を使うことはほとんどないので、周りの邪魔をすることはありません。珍しい楽器の演奏があったり、楽しそうな音楽が聞こえてきたり、面白い大道芸に人だかりができて、みんなで大笑いしたり。さすがに中心部になると、「プロ？」というような上手な人ばかりです。芸を見て、曲を聴いて、すばらしい!と思ったらチップを少々。いつぞは、どうやって運んだのか分かりませんが、道の真ん中でグランドピアノを弾いている人がいましたよ。



Strassenmusiker ウィーンはものすごく多民族都市なので、いろんな音楽が楽しめます。手前のヴァイオリンケースが「おひねり箱」になります。もちろんリクエストすれば応えてくれますよ。



